

生涯の「見える」を守りたい！

子どもの近視予防プロジェクト

参加者募集



近年、子どもの視力低下が進んでおり、その多くが近視だといわれています。近視は遺伝だけでなく生活環境の影響も大きいと考えられており、外遊びで近視が予防できるとの報告もあります。お子さまと一緒に目の健康についての知識を付けながら、生活習慣の改善に取り組みませんか？



1 事業説明会・測定会 場所：石ヶ瀬会館

2022年6月11日(土)・12日(日)のいずれか

近視についての簡単なセミナー、取り組み内容の説明とあわせて、専門的な機器を用いた目に関する幅広い測定を行います。

2 目にやさしい生活習慣づくりに親子でチャレンジ!

2022年6月～2023年1月

説明会でお渡しするチェックシートを活用し、外遊びや睡眠の時間など日々の生活習慣を振り返ります。目を大切にする生活習慣づくりに向けて、親子で楽しく取り組みます。各月のアンケート用紙を市役所に提出して、プレゼントをGET!

3 事業報告会・測定会 場所：石ヶ瀬会館(予定)

2023年2月11日(土)・12日(日)のいずれか(予定)

約8か月間の取り組みを振り返ります。目の測定会も実施します。

学ぶ

大府市子どもの近視予防プロジェクト公式LINEから、定期的に情報を発信します!



目の豆知識



プロジェクトに関するお知らせ

イベントなどのご案内
(現在企画中)



参加条件

募集対象 市内の小学1年生～小学3年生の子どもとその保護者 100組

参加費 無料

参加条件 6月11日(土)・12日(日)のいずれかで事業説明会・測定会に参加いただける期間中、近視予防に取り組んでいただける方
公式LINEから連絡を受け取れる方 その他、詳しくは大府市ウェブサイトをご確認ください。

申込方法 右のQRコード(大府市ウェブサイト)からお申し込みください。

URL <https://www.city.obu.aichi.jp/kenko/kenkozukuri/1023081/1023082/1023084.html>

申込期間 ～2022年5月20日(金)まで

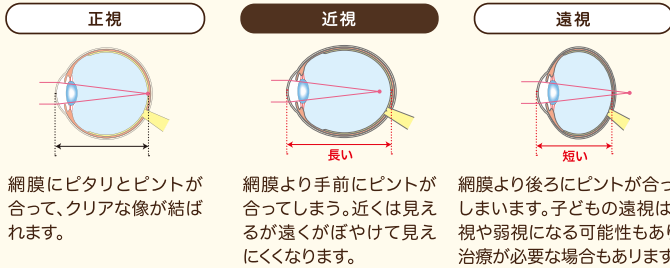


▲お申し込みはこちら

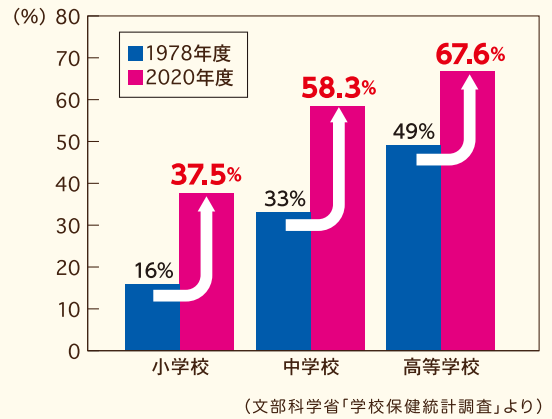
子どもの視力低下の現状

近年、子どもの視力低下が進んでいます。2020年度の調査では、高校生の7割近く、中学生の6割近く、小学生でも4割近くが裸眼視力1.0未満と年々増加しており、大府市内でも同じ傾向にあります。

子どもの視力低下の多くが**近視**によるものだとされており、その多くは「眼軸長(がんじくちょう)」と呼ばれる眼の奥行きが伸びすぎて、網膜にピントが合わなくなるものです。



裸眼視力1.0未満の子どもの割合



Q&A

Q なぜ小学1年生から3年生が対象なの？



A 一般的に、小学校中学年くらいから視力の低い子どもの割合が顕著に増え始めます。目に良いといわれる生活習慣を定着させるには、より早い段階での取り組みが望ましいと考え対象学年を設定しています。

Q 近視は遺伝するの？



A 親が近視だと、子どもも近視になりやすいといわれています。しかし、最近はその以上に近視の人が増えているので、遺伝だけでなく環境による影響も大きいと考えられています。

Q 近視が進むとどうなるの？

A 近視が進み過ぎると、メガネやコンタクトレンズが必要になるなど生活が不便になるだけでなく、将来、失明にいたる目の病気になる危険性が高まるといわれています。

Q すでに近視や遠視、乱視でも参加できるの？

A このプロジェクトは、目にやさしい生活習慣づくりに取り組んでいただく内容となっており、すでに近視や遠視、乱視の方でもご参加いただけます。

Q 近視は治せるの？



A 眼軸長が伸びすぎるタイプの近視では、一度伸びすぎてしまった眼軸長を元に戻すことはできないといわれています。そのため、なるべく早い段階から近視を進ませないようにすることが大切です。

Q なぜこのプロジェクトができたの？

A このプロジェクトは、大府市に住む子どもたちの生涯の「見える」を守りたいという思いから始まりました。これに賛同いただいた名古屋大学、スギ薬局、ロート製薬の3者に協力を得て、測定や専門知識の提供、イベント企画等が実現しました。

